

スポーツ方法実習(レクリエーション)

科目ナンバリング ESS-201
選択 1単位

大橋 信行

1. 授業の概要(ねらい)

レクリエーション支援をするための基礎的な能力であるアイスブレーキングやホスピタリティ・グループワークトレーニングについて実践的に理解し、また子ども同士や親子・家族で出来るあそびやゲーム・スポーツ・クラフトなどを理解する。

2. 授業の到達目標

「スポーツ方法実習(レクリエーション)」では、自らのコミュニケーション能力を高めるためのホスピタリティトレーニングや、人と人をつなげるためのコミュニケーションワークを学習すると共に、人々の交流を促進させるためのレクリエーション活動の知識や技術を習得し、地域での親子のふれ合い等を目的としたレクリエーション事業を、積極的に支援・指導・企画ができる能力や態度を育成することを目標とする。

地域などでの懇親を目的としたレクリエーションや学校内でのレクリエーション事業を積極的に支援・指導・企画ができる能力や態度を育成することを目標とする。

3. 成績評価の方法および基準

1. 授業への参加意欲・態度 50点
2. 授業内容の理解 30点
3. 指導技術演習の状況 30点等で総合的に評価する。

4. 教科書・参考文献

参考文献

『楽しさをとおした心の元気づくり』 公益財団法人日本レクリエーション協会、2017年
『レクリエーション支援の基礎』 公益財団法人日本レクリエーション協会、2008年
『やさしいレクリエーション実践』 公益財団法人日本レクリエーション協会、2005年

5. 準備学修の内容

この授業はレクリエーション活動を通して、人とのつながりを学ぶ授業である。従って予習・復習は、授業で学んだコミュニケーション技術等を実践し、その結果どのようにコミュニケーションが変化した(しない)のか体験的に学び、その結果(なぜ変化した・しなかった)をまとめる(復習60分)。

週週の内容については、プリントを配布するので、書籍やインターネット等で調べてまとめておく(復習60分)。

6. その他履修上の注意事項

この授業はレクリエーションの基礎資格である「レクリエーション・インストラクター」資格取得希望者を対象とした授業でもある。

「レクリエーション・インストラクター」の資格取得方法については、授業の中でも説明するが、学生便覧にも記載しているので、それもよく読んでおくこと。

※資格認定を希望する学生はすべての授業に出席すること。

7. 授業内容

- | | |
|--------|---|
| 【第1回】 | 授業ガイダンス(資格取得のためのガイダンス)(レクリエーション支援の方法) |
| 【第2回】 | コミュニケーション・ワーク1(協力ゲーム)(レクリエーション活動の習得) |
| 【第3回】 | コミュニケーション・ワーク2(トロボス)(レクリエーション活動の習得) |
| 【第4回】 | コミュニケーション・ワーク3(チーム対抗ゲーム)(レクリエーション活動の習得) |
| 【第5回】 | レクリエーション・スポーツ1(チャレンジ・ザ・ゲームの実技(ロープ、スティック))
(レクリエーション活動の習得) |
| 【第6回】 | レクリエーション・スポーツ2(チャレンジ・ザ・ゲームの実技(ネット、ボール、ゴム))
(レクリエーション活動の習得) |
| 【第7回】 | イニシアティブゲーム1「日本列島」他(レクリエーション活動の習得) |
| 【第8回】 | イニシアティブゲームの2「ラインナップ」他(レクリエーション活動の習得) |
| 【第9回】 | イニシアティブゲームの3「エレクトリックフェンス」他(レクリエーション活動の習得) |
| 【第10回】 | レクリエーション・スポーツ3(スポーツテンカ)(レクリエーション活動の習得) |
| 【第11回】 | レク・ダンス1(みんなでストレッチ)(レクリエーション活動の習得) |
| 【第12回】 | レク・ダンス2(ビューティフル・サンデー)(レクリエーション活動の習得) |
| 【第13回】 | レクリエーション支援実習1(レクリエーション支援の実施) |
| 【第14回】 | レクリエーション支援実習2(レクリエーション支援の実施) |
| 【第15回】 | レクリエーション実習の振り返りとまとめ(レクリエーション支援の方法) |